

「こだわり」からいいモノが出来る

常に『その先』と『効率』を求め続けられるモノづくり業界。ともすれば息切れしそうな感もあるが、『不器用な人間臭さこそが大切』という企業がある。そこにこだわる真意とは。

—— 御社の事業内容は、モノづくり現場における空調設備、材料の切削粉・油煙を処理する集塵機や送風機などのメンテナンスとお伺いしていますか。
おおまかに言うと、工業製品に対するというより、働く人・職場環境に対するものですね。工作機械ではないので、マシントラブルが即ラインのストップになるワケではありませんが、作業員の健康や安全に直接影響する部分のケア、ということになります。

—— メンテナンスは今回のテーマとは若干異なるように思いますが、それゆえの難しさを感じます。モノづくり現場では、その時点での最新技術が中心になるでしょうが、メンテナンスだと新旧の機械に対応しなければならぬし、ひと口に送風機と言っても様々なタイプがあるはず。広く深い知識が求められるのでは？ 作るより、守る（維持管理）ことの方が実は深いのでは？

確かにそれはありますね。弊社にも、それぞれに長けた専門スタッフがいます。でもそうした技術面よりも重視し、追求しているのは『安全』と『迅速な対応』です。突発的なマシントラブルに対処し、お客様のために手を尽くしたい気持ちが強いです。

—— 奉仕精神も大切なんですね。

現場ではある意味『なんでも屋』的なところがありますね。専門外のことでも『これも直して』と言われる



ら、なんとかして復旧させたいし。もちろんそれでも『安全』へのこだわりは堅持します。お客様に安全をご提供するの、（弊社の）社員の安全確保も、どちらも大切な使命です。メンテナンスの事故はお客様への迷惑となるし、弊社にとっても、何より怪我をした人自身の大きな痛手になる。安全・健康・環境は、業界全体の大きな課題ですから。

—— そのために取組んでいることは？

研修などもそうですが、掃除や挨拶、靴を揃えるなど、ごく平凡な当たり前の事を徹底してやる。『凡事徹底』に力を入れています。誰でも出来るが面倒くさくてやらないことへ真剣に取組み、実行する。それが安全な作業ルールを守る事に繋がるからです。スピードや効率より、実直で丁寧な仕事をする責任感、安全に対する意識を高めることが先だと思うので。

—— ちょっと意外ですね。なんとなく、『細かいことはいいいから早くやれっ！』的なイメージを持っていたんですが（笑）

たんですが（笑）

そういうガテン系の会社が多いですからね。ウチは異色かも知れません（笑）。効率優先、スピード重視の時代ですが、先日、朝礼で「大きな努力で小さな成果を」という言葉が出たんです。ビジネス的にはそれは逆だろうと思われるでしょうが、それが今の時代には必要なんじゃないかと。10やって8の利益を得ることで、お客様に尽くした、役に立ったという自尊心が生まれるし、奉仕精神や気配りにも繋がる。昔の日本はそうだったんじゃないでしょうか。だからこそ、貧しくても気品があった。もちろん企業として利益を出すことは命題だし、誰だってラクして儲けたいというのが本音。それでも理想の形として、そういう目標は掲げていきたいですね。

—— 「優れた技術者である前に、実直な人間である」ということですね。やれば身に付く技術より、基盤となる「人」そのものに価値を見出したい。実際、どんな人材を理想とされているのでしょうか。

難しいですね。手際よく仕事が出来ても、安全・基本をおろそかにする人もいれば、不器用で仕事が遅くても、地道にコツコツとやる人もいますし。ただ、「人は何かをきっかけに大化ける瞬間がある」ワケですからね。だから辞めない限りは、全ての人が重要な人材ですよ（笑）。

—— メンテナンスとモノづくり。最初は隔たりを感じましたが、人に役立つモノ・価値を生み出すという共通点があったんですね。安全の追求も然り。知識やハイクに集約される業界と思われがちですが、むしろ実直さといった人間臭い部分にこだわるからこそ重要なんですね。

